

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成25年4月 第146号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

お葬式あれこれ

—お別れと旅立ちの主役に礼を尽くして—

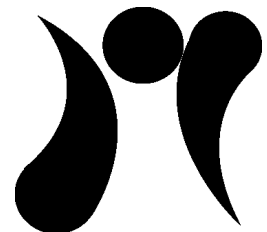
平均寿命が80歳を超え、生まれた人の大半が老いと死に向き合う年齢まで生きる社会になりました。老いに直面して身体機能の衰えを感じ、死の前兆を意識した時、主役として如何に生きるか、が問われます。次の世代に対して、主役としての矜持を示す時です。

ピンピン・コロリが老いの理想、と言う人が居ますが、それは『檜山節考』が描く貧しい時代の話です。社会全体が貧しい時代背景の中で、70歳を超えてピンピンした姥を山に捨てる風習は、残酷な側面があるものの、曾孫の生きる途を開く為の、崇高で荘厳な覚悟の営みでした。

豊かな現在の日本では、平均7～8年の要介護期間を経て最期を迎えます。要介護になって如何に生きるか、どのような姿で最期を迎えるか、社会人としての役割と責任を果たす姿を示して、次の世代に社会を引継ぎます。豊かになった時代の人生の主役として、曾孫に何を残すか が問われます。

今は、高齢者の医療・介護・年金で年間100兆円を超える資金を費やし、その大半を若い世代の負担と負債で賄います。現在の国の負債総額は1000兆円近くになり、毎年数十兆円増えています。一方で、国民個人の持つ金融資産は1500兆円と云われ、その7～8割は高齢者が所有しています。その大半が遺産として個人的に引継がれて社会には還元されず、国の負債は増える一方です。今を生きる為の資金は今の世代で始末を着ける仕組みを創る事が、次の世代に対する現役世代の責任です。曾孫世代には負債を残すのではなく、夢と希望のある社会を引継ぎたい、と願います。

高齢者介護の現場は日々の暮らしの中で、老いた主役の誇りと責任を支え、人生を締め括る営みに寄り添い、引き続いて行われるお葬式に臨みます。ご親族にとってお通夜やお葬式は、ご本人が長年生きてきた世間への義理を返し、感謝する儀式です。そして一方で、故人を偲ぶ想いを共有して、命と暮らしと共に文化や歴史を引継ぐ為の儀式でもあります。(次ページへつづく)



(前ページのつづき)

しかし地縁・血縁が薄れてきた社会の中で最近では家族葬が増え、参列もご香料も辞退する場合も多くなっています。葬儀式は行わずに、直接火葬場に向かう「直葬」も増えているようで、『無縁社会』の拡がりを感じる処です。

主役個人の生活を支えて最期の姿を見届けた介護者にとっては、生活の主役がそのまま葬儀の主役の座に在り、主役に対する礼を尽くして見送りたいとの想いが募ります。葬儀会館で行う最近の葬儀では、親族と一般参列者が左右に整然と並んで座り、お互いに礼を交わしてから焼香する姿を見受けますが、主役を差し置いて先に参列者同士が礼を交わす姿に、少なからず違和感を覚えます。葬儀式では主役への礼儀として、まずは焼香をして死者の霊をなぐさめ、故人の生前の姿を偲び、その後に参列者同士で礼を交したい、と願います。

人は偲ぶ想いを心に持ち、故人が生きてきた時代背景を思い遣り、文化や歴史に親しみを感じ、風景・景色に郷愁を覚えます。日本や西欧で残っている歴史や伝統を感じさせる古い町並みや建物・商店街は、1000年～2000年の永い歴史の裏付けを現す地域の姿です。地理的な条件が人の往来と集りを支えて街を創り、文化を育み、歴史や伝統を伝える景色を映します。壊してしまうと再現できない歴史を伝えます。

関西に住む我々には、今まさに1000年に一度の地震・津波への対策が大きな課題となっています。3・11後の東北三陸地方でも、1000年前の津波の痕跡が残っていた事が改めて確認され、昔から伝えられた街づくりの教訓が今も生きて来ます。今各地で行われている街の再開発においても、目先の利益や利便性に埋没する事なく、1000年後の人々にも街の歴史や伝統を伝える重要な役目が有り、様々な配慮と工夫が必要なように思います。

古代の山陽道は加古川を渡る為に、野口町古大内にあった『賀古の駅家』から北に上がり、日岡山と升田山の間で渡河したと伝えられています。後に宿場町として栄えた加古川町寺家町界限は、当時は川底だったのでしょう。今も加古川の水位が上昇すると、浸水の危険に晒されます。

街の歴史の中に多くの情報と教訓が潜んでいる事を忘れずに、次の世代に命をつなぎ、街と暮らしを引継ぎたい、と願います。その暮らしを引継ぐ営みの原点が、故人を偲ぶ想いの中に潜みます。ご家族や地域の人々と共に故人を偲び、思い出を語り、故人の生きて来た風景に郷愁を感じる心を大切にして、葬儀の後に続く暮らしに臨みたい、と願います。そして、その後の生活で時に触れ営む故人を偲ぶ為の風習や習慣の中で、文化や歴史や伝統を引継ぐ心が生まれ、街の景色や風景に郷愁を覚え、街の成り立ちを次の世代に引継ぐ責任感が生まれて来るのだと感じます。

1000年後の人々に街を残し、伝統を伝える為の出発点が、今の葬儀とその後の暮らしの中に在り、故人を偲ぶ想いを大切にする心から始まります。亡くなってから49日を経て、改めて故人を偲ぶ一時を持つ事に、大きな意味合いがあるようにも感じ、お葬式を巡ってあれこれと考えています。

デイサービスのお菓子作り



↑ 4月9日（火）白玉団子
白玉粉をこねて、丸めます。
お鍋の中で浮かんでくるのが待ち
遠しくて、話す声も弾みます。出
来た団子に餡子とフルーツを添え
て完成です。出来立てを美味しく
頂きました。

【4月12日（金）】金柑の甘露煮
せいりょう園の玄関に生った金柑
をまずは洗います。久しぶりに立っ
たキッチンの前で、「昔は毎日して
たのよ」と言わんばかりの手際の良
さを見せてくださいました。↓



新人研修の様子

4月に新しい職員が7名採用に
なりました。配属は特養従来型2
名、ユニット型3名、ショート2
名です。現場に入る前に1週間の
研修を受けます。介護の基本はも
ちろんですが、法人内の各事業所
にも出向き、様々な経験をしてま
もらいました。まだまだ学ぶべき事
はたくさんありますが、信頼され
る介護士として一歩ずつ前進して
ほしいと思います。



うちだ歯科衛生士による口腔ケアの研修

せいりょう園待機者状況

＜平成25年4月10日現在＞

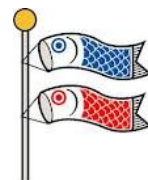
○入所判定済み者 415（グループの内）

Ⅰグループ…145名 Ⅱグループ…163名 Ⅲグループ…107名

○入所判定済み者の現在状況

在宅170名／特別養護老人ホーム入所中12名／ケアハウス入居中3名
老人保健施設入所中100名／障害者施設2名／医療機関入院中110名
グループホーム入居中13名／所在不明5名

○辞退その他 せいりょう園入所2名／他施設入所2名／死去3名





テーマ「認知症になったとしてもパート2」

せいりょう園老人介護支援センター
社会福祉士 吉田 知一

前回2月の語ろう会では、不覚にも風邪をひいてしまい、私は参加することができませんでしたが、せいりょう園の介護相談室のケアマネジャーの皆さんのご協力により、語ろう会を開催することができました。また、たくさんの方が参加してくださり、良い語ろう会になったと聞いております。

今月は、先月に引き続き「認知症になったとしてもパート2」をテーマに開催させていただきました。認知症で介護が必要な状態となった場合でも自宅で生活されている方々がたくさんいらっしゃいます。認知症を患っている方が、過ごしやすい地域になるにはどうすれば良いか、皆さんと語りました。

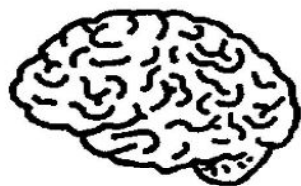
○認知症をとりまく現状

現在の日本の高齢化率は23%となり「超高齢社会」を迎えている状況にあります。加古川市の高齢化率も平成22年1月末の統計では20%を超えており、徐々に高齢化が進んでいる状態です。85歳以上の高齢者の4人に1人は認知症の症状があるといわれています。地域のご近所の方、もしくは家族の誰かがこの病気を発症していることもあり、以前に比べ身近に感じることもあるのではないかと思います。

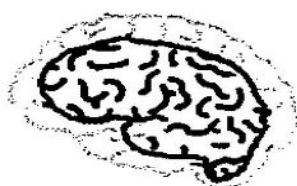
○認知症を知ろう

まずは、認知症という病気を正しく理解する必要があると思います。脳は、私たちのあらゆる活動をコントロールしている司令塔です。それがうまく働かなければ、精神活動も身体活動もスムーズに運ばなくなります。認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったためにさまざまな障害が起こり、生活するうえで支障が出ている状態を指します。

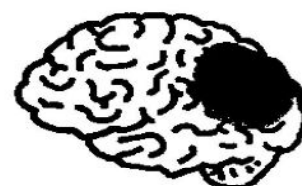
認知症を引き起こす病気のうち、もっとも多いのは、脳の神経細胞がゆっくりと死んでいく「変性疾患」と呼ばれる病気です。アルツハイマー病、レビー小体病などがこの「変性疾患」にあたります。続いて多いのが、脳梗塞、脳出血、脳動脈硬化などのために、神経の細胞に栄養や酸素が行き渡らなくなり、その結果その部分の神経細胞が死んだり、神経のネットワークが壊れてしまう脳血管性認知症があります。



健康な脳



脳の細胞がびまん性に死んで脳が萎縮する
(アルツハイマー病などの変性疾患)



血管が詰まって一部の細胞が死ぬ
(脳血管性認知症)

○「認知症になったとしたら、どのように接して欲しいか」この問いかけの答えが、認知症になった自分が求めている答え、もしくは、潜在的に認知症の方に対する考え方なのだと思います。参加者の方に聞いてみました。

- ・自分自身のことが分からなくなり、自分が周りに迷惑をかけているのであれば、施設に入りたい
- ・今住んでいる地域の方々にはお世話になりたくない
- ・認知症になったとしても自分の自由にさせて欲しい
- ・自分の自宅で最期まで暮らしたい、出来ないところだけ助けて欲しい
- ・自宅で暮らしたいけど他人が家の中に入ってくるのは嫌だ
- ・認知症になったら相談できる場所が身近にあれば安心だ
- ・もし外に出て帰り方が分からなくなり、徘徊してしまうことがあれば、やさしく接して欲しい

以上、認知症になったとしても一人の人間として尊重して欲しい方や、認知症になれば、何も分からなくなり、人に迷惑をかけるので放っておいて欲しい。認知症に対する考え方の違いで答えが分かれています。どちらも自分自身の尊厳を保ちたい、という思いは同じだと思いますが、ベストを尽くし懸命に生きるという社会参加の意味では違いがあると思います。

○認知症の方とどう接したら良いか

尊厳を大事にした対応をしましょう。認知症になっても感情やその人らしさは保たれています。その方自身を受け止め、本人の思いや生活に寄り添い、本人にとっての尊厳について考えることが大切だと思います。

感想

認知症は早期発見が大事である、とどこの研修会や講演会でも話を伺うことがあります。そこでの早期発見とは、「治療」や「進行を遅らせる」といった意味で効果的であるという内容がほとんどです。しかし、認知症は治すことが今のところは出来ませんし、進行を止めることもできません。認知症の方がどのように病気が進行し、どのような症状が出始めるのか、または、どのような最期を迎えていくのか、という事実を説明していないように思います。早期に発見することが必要なのは、今まで何でも出来ていた尊敬する親や家族が、物忘れの症状が出て、家族を疑うなどの発言や傷つけてしまうような発言について、それは認知症という病気が引き起こしていることである、ということを知っていただくことだと思います。そういった認識や理解があれば、病気がさせていたこととして、気持ちの整理がつくことがあると思います。

日々の介護に疲れ、途方に暮れてしまう事もあると思います。その場合は、孤立し家族だけで見るのではなく、他者を信頼して委ねることも必要だと思います。ご本人の社会参加という意味でも地域社会の一員として、地域の手助けや介護保険のサービスを利用することが、ご本人の生活の幅を広げるものであり、質の高い生活であるといえます。そういう意味では、まずは、我々介護に従事している専門職が信頼を得、委ねていただける存在にならねば、と強く感じております。

せいりょう園空き情報

①ケアハウスせいりょう園：3室（バス・トイレ・キッチン付 25㎡）

※入居時預り金の取扱いが変更になりました。詳しくはお問合せください。

②サービス付き高齢者向け住宅「リバティかこがわ」

：4室（バス・トイレ・キッチン付 33㎡・35㎡）

※ご夫婦でも入居できますのでご相談ください。



他ケアハウス等空き情報

○恵泉	：1人部屋若干	○第二ケアハウス恵泉	：1人部屋若干
	：2人部屋若干	○ワルツがはりま	：1人部屋1室
○サリットひまわり園	：1人部屋1室	○青山苑	：1人部屋8室
○キャッシル真和	：1人部屋2室		：2人部屋2室
○ネバーランド	：1人部屋2室	○むれさき苑	：1人部屋1室
	：2人部屋2室	○清華苑パルク	：1人部屋1室

【問合せ先】 せいりょう園 TEL(079)421-7156 / (079)424-3433

鍼灸マッサージ治療センターの運営

昨今、ストレス社会といわれて久しく、それが心身に与える影響も大きく、主要因や増悪因子となる病気・症状が増えています。医療の進歩によりそれに対応する治療が次々と開発されていきますが、完全に解消される事はなく、時代や生活様式の変化に伴い身体の変調は形を変え増加する一方です。

そこで、皆様のお役に立てるのが日本では1300年続く鍼灸治療です。基本理念に「未病治」というものがあり、これは字の通り「未だ病にならざるを治す」という事です。

最近よく聞かれる調子が悪いのに病院へ行くと「どこも悪くない」と言われる方は是非ご相談下さい。
(鍼灸マッサージ師 加茂 正晃)

料 金：3,000円（30分程度のクイックマッサージ及び部分治療）
5,000円（60分程度の針を含む総合治療）

時 間：13:00～17:00 施術者：加茂正章・橋本圭弘

休 日：加茂：第2・第4土曜日、日曜日

橋本：金曜日、日曜日、祝日

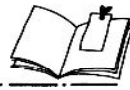
場 所：加古川市野口町長砂 95-2 リバティかこがわ2階

要予約：電話にてご予約下さい。

連絡先：090-8238-8511（加茂直通）

079-421-7156（内線59加茂/内線58橋本）





真宗大谷派 光念寺

本多 正尚 住職

デイサービス 谷澤 高明

全国各地で桜の開花のニュースが聞こえる。例年よりもずいぶん早いという。当地は少し世間から取り残されたように感じられていたが、やっと一斉に咲き始めた。『狂ったように咲いたかと思えば、もう散り始めている。この分では入学式には盛りを過ぎてしまうだろう』と危惧するニュースが続く。この時期、花吹雪の下に流れる涙がある。又「出会い」と「別れ」の季節がやってきた。一斉に落花が始まると、何か別れを急かされているような切ない気持ちになる。別れと言えば、振り返ってこの一年間でも何人かの親しい人との別れがあった。穏やかな最期のお顔に接し、少しは心安らいだものだが、寂しさはぬぐえない。最近では新聞に投稿される歌や俳句に対しても気のせいか、歳のせいか心に残る作品も似通ってくる。

“こんな日が 来るのをずっと待って
いた ただ暖かく 何もない日を”
“いつよりか 今日と明日のみ
希う春”

評に「ある年輪を重ねて遠い未来のことは考えなくなる。今日、明日のみの無事を希うようになった」と。毎日毎日を大切に、そして沢山の素晴らしい出会いに遭遇したいと願う。

今月の仏教講話には、真宗大谷派 光念寺 本多正尚ご住職に来て頂いた。ご住職は先日御母堂様が亡くなられ、何かとご多用中のところをお越し下さった。冒頭、ホワイトボードにある講師紹介を目にされ、ご自身のお名前「正尚」を「まさに和尚になるべし」とか、「真宗」は元々は親鸞聖人が法然上人から授かった教えを

「真宗を教わった」と称されたのがそのまま宗派の名前となったとの話をされた。続いてさくらの開花の話から、美しい若芽が今年も勢いよく芽を吹くさまを話され春の到来を告げられた。

今回テーマとされたのは、仏教でいうところの「業：ごう」についてであった。最初にこんなお話をされた。

『ある冬の雪国での話、振り積もる雪の中を一人の男が歩いていた。ふと雪道に落ちている黒いものに目が留まった。近寄ってみるとよく膨らんだ財布であった。男はとっさに辺りを見渡す。すると後ろから来る二人連れの姿があった。男は考えた。「ここで屈んでいるとあの二人に何か拾ったと悟られてしまう」。どうするか、ポイと財布を道の端に蹴った。そこにいて靴で踏みつけて隠した。「こうして二人の通り過ぎるのを待とう。待てよ、じっとしているのは不自然だな。そうだ、ついでに小便をしよう」。男は小便を始めた。勢いよく大量に！！そこで突然目が覚めた。辺りを見渡したがどこにも財布は見当たらない。しかし、放尿は夢ではなく現実だった。果たしてこの夢の中の放尿(寝小便)は彼に責任があるのかなのか？

人間のやる「こと」には、やりたくてやる「こと」、人から言われて仕方なくやる「こと」、イヤイヤやる「こと」、夢の中でやってしまう「こと」、いろいろある。しかしいずれも人間は、ものごとを認識し、それに基づいて種々の行動をする。この行動・行為を仏教では「業(ごう)」という。つまり人間の一切の「行い」が業で、そしてそれを身口意(シンクイ)

の三業といい、身業・口業・意業の3つに分けられ、

身業・・・身体で行うもの。立ち居振る舞い。(身体的活動)

口業・・・ことばを発すること。(言語活動)

意業・・・心で物事を感じたり、考えたりすること。(精神活動)

口が動くのは心が動くからであり、心が動くとともに体も動く。人の一生を振り返るとき、何をしたか、何を言ったか、何に心を動かされたのか。人間誰しも絶えず平静ではいられない。時にはカッとなる時がある。そのカッとなる理由、条件のことを『縁：えん』という。縁が来たら普段考えられないことをやってしまうことがある。いかなる縁が舞い込んでも、心が平静に保たれるように願うのが『六根清浄：ろっこんしょうじょう』である。六根とは五感と大六感ともいえ

る意識を加えたものである。具体的には、眼根(視覚)、耳根(聴覚)、鼻根(嗅覚)、舌根(味覚)、身根(触覚)、意根(意識)の六根で、これらの六根にネガティブな情報が迫ってきても、それを無意識に持ち込まないことを歌ったもの。

最後に障害児を持つ母とその障害児との心の葛藤から、その子が15歳で亡くなる頃にはお互いをいたわり、自らの存在が相手の幸せを害するとまで、自らを律し、さらに相手を思いやることができるようになる話から、近くにいる人を大切に思える、あなたがいてくれてこそその人生であった。そしてそのことをありがたうと思えることが仏教でいうゴリヤク(教え)とのことである。

お忙しい中、ありがとうございました。

※5月の仏教講話は第1週の6日が休日の為、第2週目の13日となります。

4月5日晴れ渡る空の下、絶好の花見日和となり、特養やショート、デイサービス皆様と桜の前で記念撮影をしました。

